

2010年7月27日

足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ 様
環境エネルギー政策研究所 様
気候ネットワーク 様
グリーンコンシューマー東京ネット 様
市民が作る政策調査会 様
主婦連合会 様
ストップ・フロン全国連絡会 様
日本環境法律家連盟 様

パナソニック株式会社
ホームアプライアンス社
社長 高見 和徳

書類送付のご案内

謹啓 盛夏の候、ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

表記の件、貴団体より大坪社長宛にお送りいただきました公開質問状につきまして、
空調事業を担当しております私共からご回答申し上げます。
ご査収のほどよろしくお願い申し上げます。

謹白

記

送付書類 : ヒートポンプの性能測定方法に関する公開質問への回答状

3枚

以上

2010年7月27日

公開質問状 回答

パナソニック株式会社
ホームアプライアンス社

Q1：御社の製品の場合、爆風モードによる性能測定によるエアコンの販売を行っていたことがありますか。あるとすれば、その時期はいつからいつまででしょうか。

<回答>

弊社は、JIS規格に基づき性能評価を実施するとともに、各種法令を遵守した性能表示を行っております。

Q2：毎年の製品ごとに、爆風モードを起動するためのスイッチ操作方法を明らかにしてください（自動起動の場合は明記）。また、各機器の国内販売台数（実績）の概数も明記してください。

<回答>

上記Q1にご回答させていただいたとおりであります。

Q3：上記の測定方法やその表示は、法令や消費者への情報提供の観点から、適正なものと考えていますか。また、いわゆる爆風モードを搭載していると知りながら、これらの機器を製造・販売していたのであれば、御社としてどのような経営責任をとられるつもりか記載してください。

<回答>

上記Q1にご回答させていただいたとおりであります。

Q4：上記の問題に加えて、エアコンの使用時間についても過大に見積もられ、実体とはかい離した表記がなされていると伝えられています。エアコンの性能測定方法や店頭表示法に関しては、通常作動や時間に即した表示とすべきと思いますが、御社としての今後改善策や基本方針を明らかにしてください。

<回答>

JISは日本国内において唯一の公的な評価基準です。

このJISの定める条件下で、各メーカーが開発競争を行い、それぞれの製品に客観的な評価指標を表示することは、お客様への適切な情報の提供という点で不可欠であり、業界の健全な発展にもつながるものと考えております。

一方で、お客様の使用実態が多様化する中、性能表示のあり方についてはさらに検討の必要があると認識しております。経済産業省の指導のもと、(社)日本冷凍空調工業会など関係各所とも連携し、より適正な省エネ情報をお客様へご提供できるよう努力してまいります。

Q 5 : エアコンに冷媒としてフロンを使用している場合、カタログにフロンの種類、封入量、地球温暖化効果を表示すべきと考えますが、御社の製品カタログでは表示されていますか？また、冷媒フロンの対応について自然冷媒への転換や今後の表示等についてのお考えをお聞かせください。

<回答>

カタログには冷媒の種類、製品本体には冷媒の種類・封入量、及び二酸化炭素換算量の表示を行っております。代替冷媒の採用については、現在研究開発を進めておりますが、安全性・効率性等の面で解決すべき課題が残されており、具体的な製品化の時期をお答えできる段階にありません。

Q 6 : 御社ではエコキュートを年間何台程度、製造販売しているのか具体的にお書きください。また御社のエコキュートは、性能表示と実性能が上記のように違いがあるのでしょうか。

<回答>

弊社はエコキュートの販売実績については公表いたしておりません。性能表示は(社)日本冷凍空調工業会の規格に基づいております。

Q 7 : エコキュートの効率について、適正な測定規格・表示を導入する方向に進む責務について、貴殿はどのようにお考えですか。

<回答>

エコキュートは、(社)日本冷凍空調工業会の規格に準拠した性能評価を行っております。性能表示については、発売当初より「お湯をつくる」効率であるヒートポンプユニットの中間期COPを採用しておりましたが、2008年からは、それに加えて、「お湯をつくる」「お湯を貯める」「お湯を使う」というトータルでの効率を表すAPF(年間給湯効率)を採用いたしました。また、業界としては、JIS規格制定に向け、すでに検討を開始いたしております。

Q 8 : 実態を欠く、虚構のヒートポンプを推進した弁償として、市場に出回った冷媒フロン、いわゆるフロンバンクの回収対策についてどのように考えますか(自己資金によるフロンの買い取りなど)、御社の方針をお聞かせください。

<回答>

弊社をご指摘のような製品を推進いたしておりません。

Q 9 : 表示性能に満たない製品を購入した消費者に対して、どのように弁償するのか(金銭賠償や、表示どおりの性能が発揮される製品への取り替えなど)、方針をお聞かせください。

<回答>

弊社は、JIS規格、もしくは日本冷凍空調工業会規格に基づき性能評価を実施するとともに、各種法令を遵守した性能表示を行っております。

Q10：(財)ヒートポンプ・蓄熱センターが6月8日、ヒートポンプの高性能化、普及拡大で大きな経済効果とCO₂の大幅削減が期待できるとの報告書を発表しました。報告書では、冷暖房や給湯がすべてヒートポンプに変われば1億4000万トンの削減可能性があるとしています。こうした削減PRに対してどのようにお考えですか。また、御社としてどのように関与する予定でしょうか。

<回答>

再生可能エネルギーのひとつであるヒートポンプ機器は、燃焼系の機器と比較して効率が高く、CO₂排出量削減効果が期待できる機器です。ヒートポンプ機器のさらなる活用・普及促進に向けて、様々なご意見や調査結果を参考にさせていただきたいと考えております。今後とも、弊社は、あらゆる事業活動の基軸に「環境」を置き、一層の環境負荷削減に取り組んでまいります。

以上